

FREE STYLE FESTA ZUSHI

2016

FREESTYLE FESTA ZUSHI 2016

2016.04.16-17 JWA JAPAN TOUR 2016-17 FREESTYLE #1

30m/s を超える暴力的なブローが水と砂を瞬時に吹き飛ばす中、プロ達の意地が炸裂！！

Report : Atsushi SHIMOYAMA
Photos : Takeshi SEKINO

強すぎる風のためにはウェイティングに入ったプロヒートだったが
全ての選手の気持ちは同じ方向に向いていた。「やるしかないでしょ！」

大会2日目は「春の嵐」になる予報だった。「全国的に風が強く大荒れになる」と気象予報は注意喚起していた。しかし、日曜日の朝はまだ「大荒れ」とはなっていなかった。いつ強烈になてしまうのだろう、どのクラスのヒートまで消化できるのだろう、プロクラスまで成立させられるのだろうか、と運営を焦らせ悩ませた。しかし、風は味方してくれたと言っていいだろう。スペシャルクラス、オープンB、オープンA、ウインズとスケジュールは順調に消化されていく。次第に風速は高まり波サイズが上がってきていたが、それでも何とか選手達の気持ちと実力によって闘いは繰り広げられていった。

今大会の目玉はジュニア選手達がどこまで闘うかであった。実力があることは既に判ってはいたが、大会となると実力がフルに発揮されるとは限らないし、ヒート運も無いとは言えない。スペシャルクラス参戦の杉選手と津野選手がどこまで勝ち上がっていくのかに興味が持たれていた。しかし、やはりコンディションはハードだったと言えるだろう。彼らの実力を表しきったとは到底言えない。勿論コンディションは参加選手に平等なものだが、演技は平素の彼らのものではなかった。フリースタイル種目を行うコンディションとしてはハードすぎて適正の域を超えていた。誰もが言った「普段ならウェイプにしか乗らないよね」と。

プロクラス以外の全てのヒートが終了した頃、風はとてつもなく強くなった。そ

れまでも十分に強かったのだが、尋常ではないところまで風速は上がっていた。近隣のハーバー風速計をチェックした選手が言う。「ブローは 25m/s 越えてます・・」。しかも雨も強い。ジャッジができなくなった。砂浜にセットされたジャッジ席では、見ていることすら大変で記録を取ることはほぼ不可能。そんな風と雨と砂と潮の4重苦が襲ってきていた。ウェイティングは余儀なくされた。

どこまで風が強くなるか計り知れなかった。本部テントとスポンサーのサポートテント、ビーチに並べられていた全てのものが片付けを余儀なくされた。ビーチには何もない。コールを待ち続ける選手達とギャラリー、そして頭を悩ませる運営スタッフの姿だけがいつになるか判らないコールを待つことになった。その頃風速は30m/s を越えていた。だが、雨が上がり青空が見え始めた頃から、僅かではあるが風が弱まり、おそらくブローは 25m/s 程度に落ち着いたのであろう。プロクラスの選手達が招集される。決して万全の望ましいコンディションではない。スーパー・ハードであることに間違いはない。しかし、選手達は「やるしかないでしょ！」と気持ちを集中させている。「危険な状態になったらすぐにキャンセルする」と運営側。次第に収まって来るであろうことを予想しながら、期待しながらプロクラスのフラッグが上がった。



実力が発揮できないもどかしさ・・

風速は20m/sはあるだろう。波サイズは肩から頭。セイルはミニマムサイズだが、フリスタボードは決して小さいとは言えない。選手の誰もがオーバーパワーでオーバースピードになる。しかし、やはりプロクラスの選手達は凄い！普段の実力はほぼ出せてはいないが、果敢に技を仕掛け、幾つかはメイクする。普通なら乗っているだけで精一杯で、それすら大変なことなのに、ホップし回転しスライドする。選手達のモチベーションの高さと技量に感服した。

どのヒートもどちらかが優勢なかを判断しにくいくらいに得点が稼げないまま進む。例えベーシックな技であっても、ひとつでもメイクできれば確実に有利になる。ヒート時間の大半をノーメイクのまま費やすヒートが多かった。だが、そこはやはりプロクラス。必ず何はひとつはメイクしてみせる。このとてつもなくハードなコンディ

ションの中で。全てのギャラリーがひとつひとつのパフォーマンスに息をのみ、その凄さに感動すら覚えていたはずだ。

やはり小林悠馬選手は強かった。PWAツアーオンに参戦し、ボネールに足を運んでトレーニングし、確実にレベルアップしてきたその成果はハッキリと現れていた。今大会ではあまりにハードコンディションであったために繰り出せた技の難易度は決して高いものではなかったし、完成度も低かったと言えるだろう。しかし、彼の実力はワンランク上だった。フラカ、シャカ、スパックなどなどを的確にメイクしながら勝ち進んでいく。誰の目にも文句の付けようのない勝利。PWAに参戦し、ボネールに修行に出向き、技の難易度もメイク率も上げてきている小林選手の国内外での今年の活躍に期待が高まる。

超強風の中でSHAKAをメイクしていく小林選手。風の強さに振り回されながらもクリーンにメイクする実力は他を寄せ付けない。



数多くの協力者によるビーチイベント

2016年4月16・17日の3日間で開催された4年連続となる逗子海岸でのJWAフリースタイル公式戦は、昨年から地元密着型イベントとして競技だけではなく様々なビーチイベントとのコラボレーションによって開催されるようになったが、第4回となる今年度は更にその色を濃くし、逗子のウインドサーフィン関係の全ショップ＆スクールが協力して企画運営にあたり、地元商店街などの有志の方々のバックアップを得て開催された。大会名も改められて”FREESTYLE FESTA ZUSHI”となり、ウインドサーフィンのフリースタイル競技を中心とした大イベントへと更に歩みを進めている。逗子市長、葉山町長、神奈川県議会議員、逗子市議会議員、羽山町会議員の面々が開会式、閉会式にてマイクを握り、選手、運営スタッフに励ましの言葉を贈っていたのがその象徴と言えるだろう。キックターゲット、ビーサン飛ばし、ウインド体験、飲食などのイベントは勿論のこと、ビーチサッカーの日本代表選手やウインドサーフィンのオリンピック選手を交えたトークショーがあつたり、これまでにはあまり行われる事がなかったプロ選手紹介のコーナーがあつたりと、ウインドサーフィンをよく知らないギャラリーの方々に向けた取り組みが数多く行われていた。競技の進行を判りやすくするために最新のラダー表を大きく掲示したり、競技の楽しみ方を説明するボードがあつたりと、競技者には当たり前であってもギャラリーにはよく理解できなかつたことをできる限り判りやすく

解説する手段を講じていたのが印象的であった。フリースタイル競技を活性化させるためだけでなく、ウインドサーフィン自体をより多くの人々に知って貰うためのイベントとして行われていることに大きな意味を感じさせる。



初日のノンプレーニングクラスとビーチイベントが ビーチに和やかな雰囲気をもたらしていた

風の予想は、大会初日の夕方になってやや風速が上がり、2日目は朝から「春の嵐」になるものだった。プレーニングクラスとノンプレーニングクラスの全9クラスをやりきるには時間調整とスケジューリングがとても大切であったが、なかなか風は予報通りにはいかない。2日目の予報を考慮すると、運営サイドはプロクラス以外の全ヒートを初日に終えてしまいと見えるのだがその思惑は外れ、初日の午後に次第に強まってくると思われていた風は遂に届かなかった。しかしその反面、ノンプレーニングクラスは全クラスが2シリーズ行うことができたのは収穫だった。ノンプレーニングクラスにだけエントリーしている選手も数多くいるため、より多くの競技に参加してもらえるのは運営サイドとしても嬉しいもの。また、フリースタイルに取り組み始めたばかりの子供達参加できるクラスとして、今回からU-18（アンダー18歳）のクラスが設けられた。フリースタイルどころかウインドサーフィンを始めたばかりという子供もいる。今後の活躍に期待したい。

競技が順調に進められる中、ビーチでは様々なイベントが行われ、テントブースエリアでは、食事を楽しみながら「クルクル」を観戦しているギャラリーや、ビーチサッカー、キックターゲットなどに夢中の子供達など、多くの人々がビーチを埋めていた。ウインドサーフィンというスポーツはとても個性的なもの故、誰が見

ても単純ではない。マイクを握っているMCの役割はとても重要だ。選手へのインフォメーションは欠かせないし競技の実況は勿論のこと、今闇っている選手を紹介したり、繰り出されるムーブを簡潔に解説したり、しゃべりを止める時間はない。イベントを創り上げるために重要な役割となるMCの存在は今後益々重要視されていくことだろう。

微風クラス名が改められた

通称「クルクル」と呼ばれる微風の中でのフリースタイルトリック。これまでトニックマスター、ベーシックトリック（更に以前はクルクルクラス）となっていた、フットストラップを使うクラス、使わないクラスというぐらで分けられていた。しかし、微風は微風なりに真剣に取り組んでいる選手が増え、「風が弱いから仕方なくやる」のではなく、「風が弱い時に凄いパフォーマンスを披露する」ものとして捉えられ始めていた。その理由から、「クルクル」全体を「ノンプレーニング」とし、スペシャル、オープン、ビギナーという3クラスに分けることになった。スペシャルクラスを設けることで更にステイタスが上がり、ホッピング系のムーブよりもこっちのクオリティを高めて成績を狙う選手も増えてくるのではないかと思う。そうなれば、プレーニングできなければ競技が成立立たないイメージのあるウインドサーフィンにとって、例えプレーニング風速に届かなくても十分にギャラリーを沸かせられるパフォーマンスを見せられる競技としてより強い意味を持つことになって行く。



スペシャルクラスのクルクル技はマジックを見ているかのようだった

3クラスに分けられたノンプレーニングは、それぞれのクラス名に応じた内容となっていた。まだまだ始めてできこちない動きを随所に見せるビギナークラス、セイルとボードを自在に操ってクルクル回り続けるオープンクラス、そして何故こんなことができるのか?と見ている者を驚かせるスペシャルクラス。クラスを3つに分けたことがそれぞれのクラスの特徴を際立たせることとなり、同レベルの選手が同じ土俵で闘うことができていた。

中でも、スペシャルクラス優勝の津野選手と準優勝の杉選手の演技は圧巻。

以前から多彩なムーブに加えてGECKOの完成度の高さが主な得点を占めていたクラスだが、これまでのGECKOとは一線を画し始めていた。時間差攻撃のように動きが止またり、止まったと思えば急加速したり、ノーズを軸にボードが縦になった状態のまま回り続けていたりと、考えられない領域にバリエーションが突入していた。2ラウンド目のファイナルで争った2人の動きがシンクロしている時間があり、それはまるでシンクロナイズドスイミングBの動きのようであった。見ていてる者を楽しませる演技をしていたことがとてもプロ的に感じられた。



表彰式の様子

プレーニングクラスは1シリーズ。ノンプレーニングクラスは2シリーズ。そしてU-18（アンダー18歳）のクラスは1シリーズをもって、全クラスのヒートが終了。風が強すぎてビーチでの表彰式を行えないため、急遽スタッフ用のパーキングに



U-18 クラス・ウイメンズ@優勝：石原 一季

移動することになったのだが、この作業がまた一大事。しかし、地元スタッフの方々の迅速的確な作業によって準備が整えられ、周囲ではまだまだ 20m/s 程も吹いているであろう中、無事に表彰式を終えられた。これもまた感謝。



U-18 クラス・メンズ@優勝：石井 高良、2位：森川 力太、3位：橋爪 秀征



ノンプレ・ビギナークラス@ 優勝：森川 力太、2位：生駒 篤樹、3位：橋爪 秀征



ノンプレ・オープンクラス@
優勝：須藤 貴裕、2位：石井 孝良、3位：武田 知久（代理）、4位：徳本 敦



ノンプレ・スペシャルクラス@ 優勝：津野 健介、2位：杉 匠真、3位：原 貴治、4位：佐藤 秀雄



スペシャルクラス@
優勝：杉 匠真、2位：秋山 健次郎、3位：梅川 努、4位：水野 雅博



オープン A クラス@
優勝：互井 千恵子、2位：鶴巻 猛、3位：名取 俊昭、4位：角谷 瞭介



オープン B クラス@
優勝：池照 貴吾、2位：佐野 彰、3位：須藤 貴裕、4位：岡本 隆治



ウイメンズクラス@
優勝：穴山 未生、2位：永井 千尋（代理）、3位：互井 千恵子、4位：碇 陽子



プロクラス@ 優勝：小林悠馬、2位：山本 卓史、3位：佐藤 秀雄、4位：吉田 洋海